

- 企画名： シンポジウム「アジアの原発廃絶にむけて」
- 実施日時： 1月14日（土） 17：00～18：30
- 実施場所： パシフィコ横浜会議センター 4F 413
- 登壇者： 司会：崔 勝久氏（原発体制を問うキリスト者ネットワーク・CNFE 共同代表）
- パネラー：
- 韓国・李元榮氏（韓国・反核教授の会代表、水原大学教授）
- 韓国・金恵貞氏（環境運動連合原発特別委員会委員長）
- 蒙国・セレンゲ・ラグヴァジャヴ氏（モンゴル 元緑の党党首）
- 日本・内藤 新吾氏（日本福音ルーテル総台教会牧師）
- 参加人数： 135名
- 文責： 大久保 徹夫（原発体制を問うキリスト者ネットワーク）

昨年11月11日11時から、日本・モンゴル・韓国3か国の反原発同時記者会見（インターネットによる同時中継放送を実施）を実施した3か国の組織が検討・企画したシンポジウムでした。

原発を廃止するためには、日本国内だけでなく、世界の国々、特にアジアの国々との連携・連帯が不可欠であるとの認識から、今回はモンゴルおよび韓国の反原発運動の現状と今後の取組みについてパネラーから説明を行った。

モンゴルに使用済み核燃料の貯蔵施設を造る構想や原子力発電所を新設する計画があり、ウランの採掘の動きは継続しているのが実態で、モンゴル緑の党を中心として「核の危険のないモンゴル国のために」という国民運動を展開し、集会や記者会見、署名運動およびインターネットを通じた呼びかけなどを実施している。

また韓国では、現在20基を越える原発があり、世界で一番過密な原発設置国であるにもかかわらず、なお新規に原発を建設計画がある。さらに、今後アジアの諸国に原発を輸出していこうとする動きがある。ただ、昨年11月のソウル市長選挙で市民派の押す市長が勝利し、今年12月の大統領選挙に向けて、脱原発の運動を推し進める機運が高まりつつあるので、さらに幅広く連帯の輪を広げていくチャンスとしたい。

日本については、現在54基設置されている原発の問題点を浜岡原発の状況を中心にパワーポイントを利用してわかりやすく説明がおこなわれた。

参加者の声としては、「日本のキリスト教が反原発運動に対してどのように対応しているのか、興味があった」、「モンゴル語のスピーチを始めて耳にしたが、美しく聞こえた。人口270万の国に何故原発が必要なのか理解に苦しむ」、「脱原発のためには、アジア諸国との連帯が必要だと思った」などがあった。

このシンポジウムを通じて、日韓蒙三国の連帯が強化され、この絆をさらに他のアジアの国々

に広げていかなければならないと感じた。

